［大網白里市］　大網白里市社会福祉協議会 大網支部



「地域福祉座談会」を効果的に活用 住民のニーズを知り地域福祉に貢献！

小学校との交流

東部が太平洋に面し、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた大網白里市。大網白里市社会福祉協議会（以下、大網白里市社協）は、市内を5つのエリアに分けて支部を設置するスタイルで、地域福祉活動を行っています。今回ご紹介する大網支部は、昭和50年代から急速に宅地開発が進み、さらに、交通アクセスの向上などにより人口が急増。新旧の住民が混在するこの地域で、どのように事業を展開しているかお聞きしました。

区長会と連携して事業を推進

現在、支部全体で行っている事業（「福祉教育推進事業」「見守り活動」など）が7つ、部会に分かれて行っている事業（「たすけあい」「広報」など）が5つと、精力的に動いている大網支部。

「大網支部では大網白里市社協はもちろん、民生委員、そして区長会と緊密に連携し、地域の福祉活動に取り組んでいます。これが他の支部との大きな違いであり、特長と呼べるでしょう」と、大網支部の後藤正義支部長。

特に区長会との繋がりは強く、年に1度は定例会を開催しているほか、大網支部の主催事業にはスタッフとして参加してくれるよう呼びかけ、実際に多くの区長が参加してくれるそうです。



大網支部のみなさん。中央が後藤正義支部長

もう一つの特長は、93 名もの理事（福祉協力員）が在籍していること。現在22 の地区から成る大網支部は、地区の世帯数に応じた数の理事を出す仕組みになっているため、地区によっては10名もの理事がいるそうです。

胸襟を開いて話し合う「地域福祉座談会」

大網支部の代表的な事業と呼べるのが「地域福祉座談会」（以下、座談会）です。座談会は平成19 ～21 年度までの3 年間は、千葉県社会福祉協議会の事業である「地域福祉フォーラム」として開催。平成22 年度からは、「お茶でも飲みながら気楽に語り合おう」と、名称を座談会に変更して継続。以降、年2 回（2 地区）ずつ開催し続けています。

座談会の主な内容は、大網白里市社協および大網支部の概要や、具体的な活動内容について説明し、理解を求めるよう努めているほか、福祉や防犯などの専門家を招いて講演会を開いたり、参加者全員で地域福祉の課題などを話し合ったりもします。



防犯講習（ふれあいいきいきサロン）

座談会に関しては、「（大網支部が）一方的に動いても住民の理解は得られない」との考えから、あらかじめ区長に連絡し、協力を要請したり打ち合わせをするなど、事前に準備を整えた上で開催しているため、胸襟を開いて話し合い、互いの考えを知ることができる貴重な機会となっており、座談会を機に「ふれあいいきいきサロン」が立ち上がった例もあるそうです。



七夕飾り（ふれあいいきいきサロン）

すべての住民に優しい地域づくりを

大網支部では「地域福祉座談会」以外の事業にも力を注いでいます。

その一つが「福祉教育推進事業」です。平成24 年度から3 年間、近隣の小中学校と大網支部がパッケージ指定を受けたことから始まり、高齢者とのふれあいが子どもたちの心の育成に役立つとの判断から、パッケージ指定終了後も継続。高齢者が学校に赴き、総合学習の時間に竹馬やけん玉など、10 数種類の昔遊びを



見守り活動

一緒に楽しんだり、子どもたちには敬老会など高齢者が参加する事業の手伝いをお願いするなど、互いに協力しながら親睦を深め続けています。

「見守り活動」は「第3 次大網白里町地域福祉活動計画」、通称「こすもすプラン」に基づき、平成21 年度から体制が整った自治会から順次スタートさせ、翌年度からは全自治会で実施。65 歳以上の一人暮らしの高齢者（大網地区は約200 名）を対象に、月1 回、自宅を訪問し安否確認をしています。

児童に対する見守りは、平成19 年度から取り組んでいます。犯罪の抑止効果を高める目的で、腕章や帽子など、わざと目立つ見守り用グッズを作り、それらを着用して見守り活動をしています。この活動は犯罪の抑止はもちろん、高齢者の方々と子どもたちのコミュニケーションづくりにも役立っているとのこと。

現在、大網支部の地域内には、7 カ所の「ふれあいいきいきサロン」（以下、サロン）があります。基本、月1 回開催され、各サロンごとにカラオケ、手芸、ゲームなど様々な催しを企画し、訪れる高齢者を楽しませています。「大網支部のサロンの基本は、皆で集まりお茶を飲みながら楽しく交流することです」と、後藤支部長。しかし、サロンの数がまだまだ少ないとの考えから、機会があるごとに理事や区長に呼びかけ、新たなサロンを立ち上げるために尽力しているそうです。なお、大網支部のサロンは横のつながりがとても強く、高齢者同士の交流が活発なのが特徴なのだとか。





福祉教育推進事業

その他にも学校や各種施設・団体との交流を行う「なかよし部会」や、広報誌の発行などを行う「広報部会」など、全部で5 つある部会もそれぞれ活発に活動しています。

若い後継者の育成を目指す

今後については、「地域の福祉活動には、若い後継者の力がどうしても必要なのです」と、後藤支部長。そのため、どうすれば若い方々が大網支部の活動に興味を持ち、そして参加してもらえるか、その方法を模索したいとのこと。

最後に、この取材で印象に残った後藤支部長の言葉を記しておきます。「福祉には上限が無いんです」と。

大網白里市社会福祉協議会　TEL 0475-72-1995

「サロン活動」に力を注ぎ 笑顔あふれる地域づくりを！

人口の急増（1970 年代は約20,000人、2019 年は約50,000 人）に比例して、少子高齢化の波が押し寄せている大網白里市。そこで現在、私たちが力を注いでいる事業が、子どもたちと高齢者を対象とした「サロン活動」です。

まずは「子育てサロン」。地域の宝である子どもたちを、日々育てるお母さんがリフレッシュできる場所として、平成17 年度に開設し現在は市内に4 ヵ所あります。8月を除く月1回の開催で、開催日には各サロンに20 組40 名以上の親子が訪れています。15 ～ 20 分という短時間で、栄養士や歯科衛生士のお話が聞けたり、美容師がお母さんたちに、子どものヘアカットを教えてくれたり、栄養士の指導でお母さんたちがお昼ご飯を作り皆で食べたりと、サロンごとに内容は様々です。ボランティアの数が多いのも特長で、各サロンに7 ～ 8名はいるため、「子どもたち全員に目が行き届くので安心」という声をよく耳にします。今後の希望としては、現在、サロンを利用しているお母さんたちが、次のボランティアになってほしいですね。

「ふれあいいきいきサロン」は、平成13 年度から設置を開始し、現在は市内に49 ヵ所あります。しかし、高齢化の波は年々大きくなるため、今後も1年間に各地区1 カ所設置という目標を掲げ、



大網白里市社協のみなさん。左から3人目が髙山義則会長

数を増やし続けたいですね。「ふれあいいきいきサロン」は、運営に関してはその地域の支部が主導ですが、新たに設置する場合、私たちが可能な限りサポートします。今後に関しては、現在は（基本的には）月1回の開催ですが、ボランティアの確保など難しい面をどうにかクリアして、開催回数を増やし、高齢者の居場所づくりに貢献したいと考えています。

※大網白里市人口：49,722人　65歳以上人口：15,172人　高齢化率：30.5%（平成30年4月1日現在）

〔平成29年8月取材〕